



青木第二地区

- ① 集会施設、文化施設
地区センター等
- ② スポーツ施設
- ③ 小学校
- ④ 中学校
- ⑤ 高校
- ⑥ 大学
- ① 地域ケアプラザ
地域包括支援センター
- ② 保育所・幼稚園
子育て支援拠点
- ③ 高齢者施設
- ④ 障害者施設
- ⑤ その他の福祉
保健施設
- ⊕ 病院
- 樹林地
- 農地
- 公園
- 文教厚生施設用地



地区概要

地区内を東急東横線が通っています。

区域は南北に分かれており、北側は反町駅周辺の起伏のある丘の上の住宅地で戸建住宅が多くなっています。南側は、幹線道路環状1号線沿道の市街地で共同住宅が多くなっています。

地区基礎データ

●人口、世帯数等の概況(平成27年3月現在)

	青木第二地区	神奈川区
総人口	5,802 人	232,788 人
0～14歳	522 人(9.0%)	27,667 人(11.9%)
15～64歳	4,295 人(74.0%)	155,501 人(66.8%)
65歳～	985 人(17.0%)	49,620 人(21.3%)

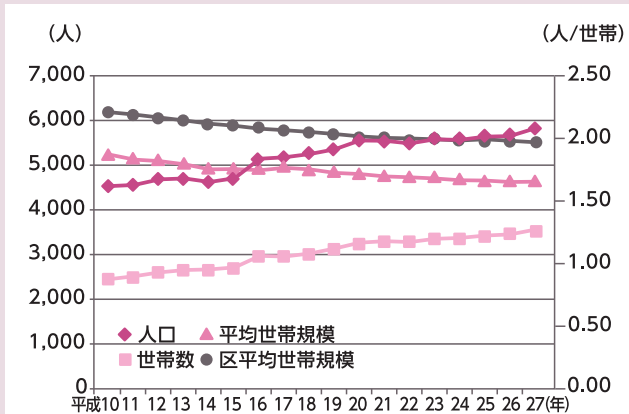
	青木第二地区	神奈川区
総世帯数	3,528 世帯	118,697 世帯
平均世帯規模	1.64 人/世帯	1.96 人/世帯
65歳以上一人暮らし世帯	391 世帯(11.1%)	15,662 世帯(13.2%)

人口、世帯数は緩やかな増加が続いています。

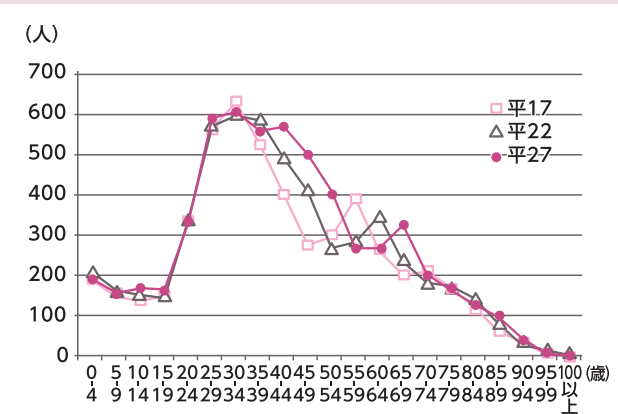
20歳台が転入増加する傾向が強く、25～49歳が多い年齢構成になっています。15～64歳の比率が高く、14歳以下や65歳以上の比率が低くなっています。

平均世帯規模は、かなり小さく、高齢の一人暮らし世帯の比率も低くなっています。

●人口、世帯数、平均世帯規模の動向



●年齢5歳別人口の動向



*「町別世帯と男女別人口」、「町丁別年齢別男女別人口」による。各年3月末現在

防災を通じた世代間交流のまち “青木第二”

これまでの取組とこれからに向けて

平成22年より「防災を通じた世代間交流」をテーマに活動してきました。推進体制は5つの部会（ふれあい訪問部・防災意識啓発部・情報部・給食給水部・避難誘導部）で構成され、各自治会町内会長や民生委員児童委員、青少年指導員、スポーツ推進員、保健活動推進員などの様々な方々が集まり話し合いを続けています。

具体的な活動としては「防災フェア」「避難所生活体験」「缶詰を使ったアレンジ料理教室」「災害に備えるアンケート調査」「物資運搬訓練」などを行ってきました。一人暮らしの高齢者の日常の見守りや、区役所との協定による要援護者名簿による地域マップを作成し、それを基に防災の取組をはじめとした様々な活動を行ってきました。

今後も「地域福祉活動計画実行委員会」を推進体制として、世代間の交流を通じ“いざという時、助け合えるまちづくり”を目指していきます。



【地域福祉活動計画策定委員会の様子】

目標1（平常時の取組み）

ふれあい訪問と意識啓発を進めよう



【地区毎のマップ作成】

- ◆災害時要援護者の「把握」「見守り」を行う体制づくり（アンケートによる把握等）や自分の地域で隣三軒の連携強化、認知症や障害者への対応の学習（ふれあい訪問部）
- ◆災害時の安否確認（ふれあい訪問部）
- ◆災害時に備えた一週間分の食料備蓄の呼びかけや継続した防災意識の啓発の実施（防災意識啓発部）

目標2（災害時の取組み）

災害時を想定した取組みを進めよう



【物資運搬訓練】

- ◆地域防災拠点から各自治会町内会への災害関連情報の伝達や、各自治会町内会の情報収集、地域防災拠点への連絡を行う訓練（情報部）
- ◆災害時に地域防災拠点に届けられる食糧等を、自治会町内会ごとに仕分け、運搬する訓練（給食給水部）
- ◆平常時からの「まち歩き」による「危険箇所」の点検、避難のための3ルートを検討、外国人の誘導方法の検討（避難誘導部）